



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 〇秘書課 ☎ 36-7117

## 今月のテーマ 次なる4年間に向けた市政の展望

三度、島田市政のかじ取りを担わせていただくことになりました。引き続き、島田市のために尽力できることを大変誇りに思うと同時に、改めてその責任の重さを痛感しております。今回は2期目の4年間を振り返りつつ、次なる4年間に向けた市政の展望についてお話させていただきます。

2期目は、8年前の市長就任時からの大きな課題を解決し、形としてきた4年間でした。市民の皆さまが待ち望んだ「島田市立総合医療センター」の開院、新東名島田金谷IC周辺における緑茶・農業・観光の体験型フードパーク「KADODE OOIGAWA」と大井川流域の観光情報を一体的に発信する「TOURIST INFORMATION おおいなび」のオープン、そして、田代の郷における子どもを中心に3世代が一緒に楽しめる「島田ゆめ・みらいパーク」の開園が実現しました。

また、人口減少、特に少子化が進む中、まちの宝であり、島田の未来を担う子どもが健やかに育つように、「子育て応援都市 島田」の名に恥じぬよう、子育て・教育施策は特に力を入れてまいりました。

全ての子育て家庭に妊娠期から同じ保健師が継続して関わることで、より気軽に相談しやすい関係を築いていく「島田市版ネウボラ」の開始や、病氣中でも安心して子どもを預けることができる病児保育の実施、島田第四小学校・島田第一小学校と順次進めている教育施設の改築、地域ぐるみの子育てで親の孤立を防ぐ取り組みなど、安心して子どもを産み育てることを応援する施策を、重層的に打ち出しています。

これらの取り組みに加え、このまちに住む人の温かさ、都会と田舎が融合する住みよい生活環境といった島田の総合力が子育て世代に受け入れられ、7年連続の30歳代と10歳未満における社会動態の転入超過という形で、その成果が表れています。

さて、私が考える次なる4年間の展望ですが、その主な内容は本紙巻頭の「就任のごあいさつ」のページでお話させていただいておりますので、ここでは巻頭でお示しできなかった内容について、お話をいたします。

市民生活に直結する課題としては、人口減少・少子高齢化が進む中、特に中山間地域においては、医療・介護・福祉などの住民サービスや、買い物などの生活機能を維

持し、安心して暮らせるよう、交通や通信を活用したまちづくりを進めていく必要があります。道路や水道施設などのインフラや公共建築物の老朽化対策と維持・管理も、待ったなしの大きな課題です。

令和6年度末に統合を予定する北部4校の跡地利活用も、地元のご意見を伺いながら、統合までに具体的な跡地利活用方針を見出してまいります。平成になってからの30年間で、市内の児童・生徒数は4割減少しました。加えて、1人1台端末(PC)、アクティブラーニングやプログラミング教育、小学生からの英語教育など、教育現場は大きく様変わりしています。子どもたちが楽しく学校に通い、多様な価値観に触れ、切磋琢磨できる環境の整備を図ってまいります。

これからは空き家のリノベーションなど、既存ストックの活用でまちなかの活性化を図る施策も、重要になってきます。人口減少に対応した「都市機能の集約」や「まちなか移住の推進」などを、中長期的視野に立って進めなければなりません。そして魅力的なまちを創るためには、若い人たちを巻き込んだ移住定住の促進と人材育成が欠かせません。

このほかにもさまざまな施策を進めていきますが、限られた財源の中、何を最優先に進めていくのか、しっかりと見極めてまいりたいと考えております。現在(いま)を生きる私たちの選択に、島田の未来が掛かっています。皆さまと対話を重ね、連携・協働して、直面する行政課題に取り組み、ご納得いただける市政運営を目指してまいります。人口や税収が減少していく中であっても、市民の暮らしをより豊かにできるよう、職員とともに懸命に働いてまいりますので、皆さまのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ロボホンを使ったプログラミング講座(島田二中)